

「tovo」について

「tovo/トヴォ」は東日本大震災によって、親を失った子どもたちを、青森から支援するプロジェクトです。

チャリティーグッズを制作・販売し、その経費を除いた全ての収益を、長期的な子どもたちの心のケアの為、あしなが育英会へ継続的に寄付し、青森から「あなたがたのそばにいつもいますよ」と伝え続けます。

おかげさまで、**2011年6月から2017年4月現在までの総寄付金は、「¥5,184,238」となりました。**10年間（2011年6月～2021年6月まで）の活動を目標にしています。引き続きのご支援・ご協力を宜しくお願いいたします。

おかげさまで、2017年6月で、トヴォは6周年！残り4年、これからもどうぞ宜しくお願い致します！

チャリティー缶バッジなどのお取り扱い店（順不同／2017年6月現在）

- 【青森市】A-Factory／kotabi(コタビ)／アトリエCANOE／もぐらや／open plaza sora／open plaza sena／大澤歯科医院／とき歯科／
- 【弘前市】HOMEWORKS 4th／bambooforest／津軽工房社／中国料理 豪華楼
- 【黒石市】木田理容所
- 【青森県上北郡】TBT英会話教室

チャリティー藍染商品（2017年版）発売！

昨年、2016年、「アトリエカヌー竹内さん」と作るトヴォの天然藍染にて、藍の「種まき」から「刈り取り」までボランティア参加された皆様、ありがとうございました！

おかげさまで、昨年はたくさんの藍が取れ、その藍で染められた「トヴォの藍染チャリティー商品」を2017年6月末に発売開始予定です。昨年と同様に、『藍染Tシャツ（2017年版）※表紙でモデルさんが着用しているのが今年のTシャツです』と『藍染てぬぐい（2017年版）』を発売。お手伝い頂いた皆さまのおかげで、今年の藍染チャリティー商品は、昨年より値段を若干下げることができそうです。

1年かけて皆で種から育てて作った各々の想いが込められたチャリティー商品。たくさんの方に喜んで頂けるとありがたく存じます。

商品の詳細につきましては、サイトなどで告知させていただきます。本年も何卒宜しくお願い致します！

【岡山県岡山市】レストランMint

ボランティア大募集中！

2017年6月、トヴォは活動開始より6年を迎えます。もうなのか、まだなのか、感じ方はそれぞれですが、活動目標まで残り4年。青森県内、県外問わず、残り1460日を共に試行錯誤しながら歩んでくださるボランティアを大募集中です！
メール：tovo 代表 小山田 和正 (info@tovo2011.com)

フリーペーパー「tovo plus」配布ご協力店（順不同／2017年6月現在）

- 【山形県】(有)熊谷伊兵治ナメコ生産所 くまちゃんなめこ
- 【茨城県】art space bar conflictable cube コンフリ
- 【東京都】Only Free Paper／RE:BIRTH STUDIO
- 【大阪府】はっち
- 【岡山県】ブックランドあきば岡山高島店／レストラン Mint
- 【青森県青森市】A-Factory／アピオあおもり／kotabi／着ダニング心／ふたば写真館／もぐらや／SUBLIME
- アトリエCANOE／open plaza sora／open plaza sena／ヒーリングサロンLULU／カフェ・デ・ジターヌ／BEAM LLC.

- 【青森県弘前市】まちなか情報センター／弘前市役所／chicori／弦や／バンブーフォレスト／太平洋画房
- 【青森県五所川原市】むすぶカフェ えいぶる
- 【青森県黒石市】木田理容所／津軽黒石 こみせ駅／おかしのおくら
- 【青森県北津軽郡板柳町】monoHAUS
- 【青森県上北郡七戸町】TBT英会話教室

 PDFを「ブックログのバナー」にて 配信中心！

今年も「アトリエカヌー竹内さん」と作るトヴォの天然藍染 はじまっています！



2017年5月7日 種まき作業にて

青森市「アトリエカヌー」の竹内さんと、みんなで一緒に藍の種まきから始めて、育てて、藍染チャリティー商品を作っていきたい！その製品ができるまでの行為も含めてチャリティーにしたらどうだろうかということで、去年から始めた藍染プロジェクト。今年も、2017年5月7日、多くのボランティアのご参加を頂き無事に種まきを終了しました。次は、8月の刈り取りになります。引き続きボランティア大募集中！お気軽にご参加ください。楽しみましょう！

ボランティア募集中！

- ①2017年5月初旬（種まき・藍染体験）※7
 - ②2017年8月下旬（1回目の刈り取り作業）
 - ③2017年9月下旬（2回目の刈り取り作業）
- ※各々の期間は、今年の天気や発育状況によって変わります。

青森市「BEAM LLC.」様のご好意にて、青森市新町の超大型スクリーン「新町ヴィジョン」にて、tovoの活動や、フリーペーパー「tovo plus」の紹介広告放映中。

トヴォの最新情報は以下で更新中です。

- tovo2011.com
- shop.tovo2011.com
- @tovo2011
- https://www.facebook.com/tovo2011
- @tovo2011

【発行】代表：小山田 和正 (mail: info@tovo2011.com)
住所：〒037-0056 青森県五所川原市末広町14-1
【表紙撮影】工藤 文昭



www.tovo2011.com

TAKE FREE
Vol.15(JUN.2017)

チャリティー藍染Tシャツ
(2017年6月末発売予定)



はじめてtovo代表の小山田さんに連絡をしたのは、2013年12月18日でした。それから、こんなにも私とtovoの長い物語が始まるとは思っていませんでした。何の目途もないのに、メールで「50個買います!」と言った私はとても無謀で、面識もない私に50個もの缶バッジをすぐに送ってくれた小山田さんも無謀です。

関西に住む私は阪神淡路大震災を経験しました。何をしたいのかもわからず、街頭であしなが募金を集める活動をたった一度だけしました(偶然にもこの時もあしなが募金でした)。22年経った今でも、早朝のアノ大きな揺れ、あの日過ぎた1日を忘れる事はありません。

そして、2011年に起こった東日本大震災。毎日、東日本で起こっている出来事に泣きました。泣く事しかできない自分を情けなく思いました。悲しい涙ではなく、悔しかったのか、怒りだったのか、あの時の涙はいつもうまく説明できません。

少し経った頃、津波で商店街ごと流された、ある海苔屋さんから少しでも再建の力になればと大量に海苔を買いました。この時も何の目途もありませんでした。友だちに声をかけ1つずつ手売りしていききました。完売後、もう1度大量に買いました。

「1度ならず2度に渡り、遠く京都から応援の声がありがたいです。頑張らないといけませんね。」

2度目に届いた海苔の段ボールの中には、そんなお手紙と数枚の写真が入っていました。津波で流されてガラとした空き地。そこに店舗があったのだと手紙に書いてありました。

この時に1度で終わらせたらダメなのだと強く思いました。支援を1度だけして、離れていく人も多かったのでしょう。でも、そんな人たちを責められないという気持ちもあったのでしょう。だから2度目の注文を喜んでくれたのだと思います。あの手紙があったからこそ私は今も続けていられるのです。

あれから10年間を目標に活動をしているtovoに出会い、tovoの活動を続けていく中で、風化を強く感じるようになりました。tovoをもっとたくさんの人に知ってもらうにはどうすればいいか?

「自分でtovoイベントを主催しよう!」

そう考えた私はやっぱり無謀なのです。クリエイターでもイベントプランナーでもない私が「トヴォマルシェ」というtovoの冠をつけたイベントを企画しました。

それはもう本当に大変で、遠く離れた青森から見守る小山田さんもハラハラしっぱなしだったと思います。初めて胃薬が手放せない毎日を過

ごしました(笑)。会場探し、出展者探し、1人でゼロからのスタートで、お客さんが来てくれるかもわかりませんでした。

何より1番の大きな壁は「無償」と「有償」でした。tovoを続ける中で、辛いこともあれば、悲しいことも経験してきました。でも、続けてきました。それが私の覚悟であり責任でした。今回のトヴォマルシェの開催にあたって、この「覚悟」がないという指摘もいただきました。売り上げがなければ生活していけませんし、それを生業としている方たちなので当たり前話です。だけど、そんな方たちを無償で全て1人で背負いきれませんでした。そこに覚悟がないという事を言われると、私は前に進むことも、後ろに下がることもできませんでした。



開催することで迷惑をかけてしまうのか?中止にした方がいいのか?1人で考え続けました。きっとこれからも入れ替わりに「お手伝いしたい」という素晴らしい人たちがtovoには出てくるでしょう。その方たちに、続けることのしんどさも喜びも、両面を知ってほしいからこんな苦しい面もあえて書きました。1度うまくいかなかったとしても、もう1度チャレンジしてほしい。1度だけで離れていく寂しさを被災地の人たちに味わってほしくないから、形を変えても、tovoじゃなくても、何でもいい。「ALWAYS WITH YOU」で行動できる人が増えてほしい。

さて、そんなトヴォマルシェがどうなったか。

2017年3月11日、築100年を超える素晴らしい京都の町屋を貸し切り、開催することができました。開催前に漠然と私が思い描いていたこと。それは「tovoとみなさまの優しさがあふれる日」にすることでした。オーガニックな人も、ジャンクな人も。復興支援なんて興味がない人も、協力したい人も。あらゆるジャンルのの人に来てもらい、その中心にtovoがいる。そんな日にしたかったのです。



運営ボランティアスタッフもいなかったの、終了後も後片付けに追われ、手ごたえは全くなりませんでした。その日の夜、ボランティアカメラマンをしてくれた友だちからたくさんの写真が届きました。その写真を見て、初めてどんなイベントになったのかを知りました。

それは温かい写真ばかりで、出展ブースの至る所にtovoがいて、tovoとのコラボ商品(売り上げの一部を寄付するもの)を売っている姿とそれを買う人たちがいました。それを見て初めて「tovoとみなさまの優しさがあふれる日」になった事を知りました。またやりたい、やってほしい、そんなもったいない言葉もたくさんいただきました。

チャリティーやボランティアがまだまだ浸透しない日本で、こういうイベントが増えていけばいいなと願っています。そして、「トヴォマルシェ」がゴールまでVol.2、Vol.3と続き、京都以外に拡がって開催できることを夢んでいます。

私のゴールはどうなるのか。まだまだトヴォコは走り続けようと思っています!



Written by
トヴォコ(京都市)

① @tovo2011.kyoto

photo by 堀人 - toribito

